

文系学生に聞く，情報入試合格体験談

—インタビュー記事—

高橋尚子

國學院大学

インタビューにあたって

2025年度から始まる大学入学共通テスト（以下，共通テスト）「情報」の入試。文系・理系を問わず，国立大学では原則として全学生を対象とするなか受験勉強はどうすればいいのかわからない不安があるだろう。そこで，共通教科情報とは異なるものの，関係の強い共通テスト「情報関係基礎」を選択し，文系大学に合格した現役大学生にインタビューを行い，体験談を語ってもらった。学生との出会いは，本学の経済学部1年の必修科目「基礎演習」のFA（授業アシスタント）が相互見学に来たときである。「僕は，共通テストで約500名が受験する情報関係基礎で合格したんです。情報処理学会の理事で，記事を書いている本物に会えるなんて……」と声をかけてくれた。そこで，本会としても，なかなか会えることができない情報関係基礎の貴重な受験者，しかも経済学部という文系大学に合格した学生が，どうやって受験勉強をしたか，生の声を聞いてみよう，話を伺うことにした。いろいろな話を聞いている中に，情報入試に挑むヒントがたくさんあった。ぜひ，最後まで読んでほしい。

奥山怜央さん(本会ジュニア会員)
國學院大學 経済学部経済学科2年



Q. まず高校について教えてください

高校は，千葉県立東葛飾高校です。公立の中高一貫校で，中学で受験し，そのまま高校まで進学しま

した。中学受験のきっかけは，1期生の募集で面白そうだったこと，電車通学でもそれほど遠くなかったこと，親のすすめもありました。また，英語教育と情報教育を充実させるというのが魅力的で，プレゼンとかもできそうだなということもありました。通っていた小学校は，中学受験が比較的多く違和感はありませんでしたし，単願で落ちたら学区の入試がない中学に行けばいいと思ってました。入試問題は，国語や算数でなく，適正検査といって総合問題のようなもので，長文読解，問題解決などが主なものでした。

Q. 高校までにどのような情報の授業を受けてきましたか

高校では，3年のときに「情報の科学」を学習しました。パソコン教室の実習が主で，Microsoft Officeがインストールされていたので，Word，Excel，VBA，PowerPoint，Access（データベース）や，スクラッチを使って，いろいろなことをしました。3年生での履修で，実習がメインだったので，息抜きのような授業でした。ほかの生徒たちは，まさか情報の授業を受験科目の対象にするという意識はなかったと思います。

中学では，技術・家庭科の技術で，車を動かす教材でプログラムを作ったり，試験でフローチャートを描いた記憶があります。

小学校では，高学年になって教室のパソコンを使って，ポスターを作ったりしたと思います。

Q. どうして國學院に入学したのですか

大学に進学するときの興味は，経済と情報でした。

情報は、大学で専攻しないで、とりあえず趣味として続けようと考え、経済学部を進路に選びました。大学は、23区内のキャンパスに4年間通学できるところを探して、選びました。受験は、共通テストを使えるところにしました。國學院は、共通テストの方式で合格しましたが、一般入試も併願していました。他大学も同様に、共通テストと一般入試の併願をしたのが多いです。第一志望である別の大学には合格しなかったため、國學院に入学しました。

□ 情報関係基礎の受験を決断するまで

Q. ずばり「情報関係基礎」を選んだ理由を教えてください

高校1年のときに、この科目があるのを見つけました。実際に解いてみたら意外とできそうだったし、数学IIBより得意というか、点数がとれそうだなと感じました。情報関係基礎は模試や対策本がなかったので、大学入試センターが公開している過去問題を解いてみました。具体的には、数学IIBは70%くらい、情報関係基礎は90%くらい正解できたつもりです。それに、通学可能な23区内の大学の経済学部や、通学範囲の筑波大学が情報関係基礎を選択できたので、受験科目に決めました。

Q. 入試の受験勉強はどのようにしましたか

受験勉強は高校3年からで、しっかり勉強したくて、受験情報を探していたら情報入試委員会のWebサイト^{☆1}を見つけました。そこから、noteの連載記事「教科『情報』の入学試験問題って？」^{☆2}を見て、学会を知りました。いろいろ情報がとれそうだったので、ジュニア会員に登録しました。情報入試委員会のWebサイトは、ほぼ全部の過去問題があり、非常に貴重でした。noteの解説は、長くて読むのが大変ですが、参考になる部分もあり、出題の意図を探るのに貴重な情報だと思います。ぜひ、本にして

ほしいです。

過去問題を解きながら、分からないところや難しいところは、解答と照らし合わせながら、何度も見直しました。第3問のプログラミングや第4問の表計算は、解法(法則みたいなもの)があるし、ほかに一般の解説本があるので参考にしました。ただ、第4問の表計算はすでに使っていたので、特別な受験勉強をすることはありませんでした。第1問と第2問は、問題文のパターン、表現に慣れるように何度も読み込みました。ほかの入試問題も探して、SFC(慶應義塾大学湘南藤沢キャンパス)の問題を解いてみたのですが、数学的なものも多く、難しく感じました。

全体の受験勉強時間に対して、情報の比率は1割以下だったと思います。

□ 子供のころから身近にPC

Q. いつごろからPCに触れたか覚えていますか

幼稚園の年長のときに、親の古いPCが家にあり、YouTubeを見る手順を覚えてもらい、初めて使いました。

次に、小学校で、ブラウザの使い方と検索を覚えました。一度、ウィルスを入れてしまい、PCを壊したことがあり、親に怒られました。でも、親から詳しく教わることもなく、塾などもないので、公立図書館に行って解説本を見つけ、読んで勉強して使っていました。もちろん、宿題もやったし、外でも遊んで、その上でPCに触ってました。

ひたすらパソコンに触ってただけで、プログラミングはやってません。自分のPCは、中学に入学した時に買ってもらいました。小学校の時は、Windows XPだったと思います。そのあと、Windows Vista、Windows 7、Windows 8、Windows 10まで、今は、Macですけど。最初は、一太郎スマイルが面白くて、ポスターやスライド作成をしてたんです。

小学校のとき、表計算(Excel)で運動会のタイムテーブルを作ったのが絶賛され、成功体験となりま

^{☆1} <https://sites.google.com/a/ipsj.or.jp/ipsjin/home>

^{☆2} <https://note.com/ipsj/n/n81737ef872ec>



した。それは、出し物に対して、用具係などの役割分担を作成し、用具の出し入れなどのタイミングが分かるようにしたものです。これは使えるという実感がわきました。小学校の担任が情報分野が得意で、いつでも使えたのがよかったと思います。

Q. ほかに情報とかかわりがありそうですが、教えてください

高校1年生の終わりに、新型コロナの流行が始まり2年生の5月くらいまで登校できませんでした。イベントや行事が中止されたり、実施できても全員参加はできなくなりました。そこで、生徒会で行事やイベントを何とか実施する方法を考え、ネットで学内に分散配信を始めました。生徒会に、放送局という組織があり、学内はLANが整備され、各教室にモニタがあったので、動画配信を行いました。生徒会総会、PTA総会、部活の様子など、いろいろなものを配信しました。さらに、学外で行った合唱の発表会もYouTubeで配信しました。配信をするにあたっては、情報通信やネットワークなど情報に関する勉強をしました。スイッチャーなどの機器は用意してもらいました。

Q. 「情報」に関する資格を持っていますか

中学3年のとき、ITパスポート試験に合格しました。これも対策本を公立図書館で借りて勉強しました。その後、セキュリティマネジメントに合格し、高校1年で基本情報技術者試験に合格しました。受験勉強の中では、データベースが難しくて苦労しました。

そのほか、MicrosoftのOffice Specialist (MOS)の上位 (MOS Expert) まで取得しました。これも、受験対策本で勉強し、セミナーなどは受けてません。よく行く公立図書館では、情報関係の書籍購入をお願いしていたのですが、最近では発注しなくても揃うようになってきました。大学の図書館には情報系の本が少ないので物足りないです。

資格取得のために、塾やセミナーに行ったことはありません。

□ 情報以外にも役立つことがある

Q. パソコン以外に興味や特技があれば、教えてください

趣味はパソコンだけでなく、写真や読書が好きです。読書は、いつのまにか速読ができるようになりました。今では、大学と自宅の往復3時間の間に、新書1冊読むくらいできます。何冊も読むことで、速度が上がり、慣れてきた感じです。これは、情報の問題を解くのに有利だと思います。情報の問題は、問題文が長いし、内容や背景を理解しないと解けないので、読解力は重要です。そのうち、問題文の読み方が分かってきます。

□ 情報で入試を受験する人たちへ

Q. 受験対策に必要なと思ったものは何ですか

今は情報関係基礎の過去問題しかないのですが、共通テスト「情報I」の試作問題もいいけど、例題や模試があるとよりいいですね。さっきも言ったように、プログラミングや表計算は解法でできるし、ほかの資格試験などもあるので、対策はできます。でも、解法がない第1問と第2問のようなものは、まとめた解説本が欲しいです。必要な知識は、教科書を見れば分かるだろうけど、教科書は受験対策用ではないのでそのままは使えません。とにかく、解説・参考書が欲しかったです。実際に解いていると筋が見えたり、何かつながったときに解答が見えるので、何度も読んで傾向をつかむしかありません。情報処理学会の先生たちには、ぜひ、対策本を書いてほしいです。

Q. 共通テスト「情報I」の科目選択は、後輩に勧めたいですか

文系大学に入って、情報関係基礎の受験勉強が直接役立ったことは、特にありません。ただ、実際に使ってきたことは、手段や課題解決のツールとして

授業に役立っています。

数学が弱みであれば、情報での受験を勧めたいです。たとえば、国立の7科目、数学と情報を勉強するのは大変ですが、情報が得意ならいいと思います。また、何を選択するかは、先生の指導によって違うかもしれません。自分の高校の先生は情報の専任が1名、数学との兼任が1名でした。GIGAスクールが始まる前だったし、共通テストの科目でもなかったので、情報の影は薄いイメージはありました。でも今は、違うと思います。

□大学でも続け、将来へ備える

Q. アルバイトなどでPCは活用していますか

今は、アルバイトで小中学生向けプログラミング教室の講師をしています。もし、情報入試の受験塾ができれば、講師をやりたいと思います。

Q. その後高校はどうなりましたか

卒業後、文化祭で各教室の混雑状況を Microsoft Teams を使って、掲示しているのが分かりました。後輩たちが新たな取り組みを始めたのを見つけてうれしいです。中高生情報学研究コンテストを教えてもらったので、応募するように勧めてみます。

Q. 今後というか、将来の希望は何ですか

興味のある分野は金融なので、就職先は、銀行・証券が1つの候補になるかと思います。最近、広告代理店にも興味が出てきました。大学では、「経済理論とデータ分析コース」を専攻しているので、データに関することにも必要性を感じてます。データサイエンティストというのを、今日聞いたので、ぜひ挑戦したいですね。経済と情報の組合せは、すごく強いと思います。情報は絶対に必要なもので、学び続けることは大事だし、ネットからいろいろな情報がとれるし、ネットで勉強できるので、考えていきたいです。

インタビューを終えて

奥山さんの例は、決して特別とは感じなかった。確かに、子供の頃からPCに触れたとはいえ、プログラミングをしていたわけではない。中学や高校の環境が良かったとはいえ、専門家の指導があったわけではない。興味から触っていたら、好きになり、身に付いてきたという感じである。使い方にコツがあるようでもない。本人は嫌がるかもしれないが、かつてなら「パソコンオタク」と呼ばれた類だが、本は公立図書館を活用するなど堅実派、フツウの学生だ。また、本人のコアコンピタンスとして、速読術があるようだが、これもある程度訓練や慣れで習得できるものである。

情報の基礎知識は語句を理解して覚える必要がある。プログラミングや表計算のように解法があるものは事前に策を練り、論理的思考は読解力や情報整理力を鍛錬するしかない。結局のところ、ほかの教科と同様で、合格への近道はないし、受験対策は変わらない。今後、受験対策本や受験対策セミナーなどが開催されれば、受験生に自信がついてくるだろう。しかし、それは日々の積み重ね、PCに触れる生活があって成果が出るものだ。また、情報関係基礎と「情報I」の違いはあるにせよ、彼のような経験者が語ってくれれば、より身近な教科として浸透していくのではないかと期待したい。

(2023年10月5日受付)



高橋尚子（正会員） n.takahashi@kokugakuin.ac.jp

本会教育および会誌担当理事を歴任（2019年～2023年）。大学時代に女子大初のマイコンクラブを結成。女性SE第一期生として富士通入社。その後ASCIIでビジネスパソコンスクール開校、OAインストラクタを経て独立。1995年から大学で非常勤講師を始め、2007年から國學院大學経済学部で情報教育に就く。

